2024年度 国公立大学入試

世界史

学校法人 河合塾 世界史講師　山内 秀朗

1 はじめに

昨年度の展望において、国際秩序と人権に関するテーマに注意を喚起したが、実際に2024年度の国公立大学入試では、このテーマに関連する問題が多く出題された。関連して、ブラック・ライヴズ・マター運動やポストコロニアルの視点からの問題もあった。世界史探究と歴史総合の新課程を先取りする資料読解を要求する問題や、「世界史の中の日本」に関連する問題も多かった。国家・宗教と国民統合、時間軸・空間軸と世界の一体化は主要な出題テーマとなっており、世界の一体化に関連して、16～17世紀の銀の大量供給に関連する問題もめだっていた。

2 国際秩序と人権に関する問題

一橋大学の第2問は、問題文中でブラック・ライヴズ・マター運動に言及した上で、「奴隷を解放した側からではなく、解放された側、すなわち、元奴隷や黒人社会、アフリカ各国の側からみた場合、奴隷解放とその後の解放された黒人に対する政策は、どのように評価することができるか」を400字以内で論じさせる問題であった。同様に、**大阪大学**外国語学部の第1問は、ブラック・ライヴズ・マター運動の先駆と考えられる事件を紹介した上で、アメリカ合衆国の黒人問題の変遷を300字程度で論じさせる問題であった。**名古屋大学**第3問の問6では、60字以内でシェアクロッパー制を簡潔に説明させる問題が出され、**高崎経済大学**経済学部の第2問では、解答としてシェアクロッパー制が要求された。このほか、**東京都立大学**第3問でも、ラテンアメリカの奴隷制度の盛衰が250字以内の論述問題として出題された。

また、**東京大学**の第1問(2)は、1964年の国連貿易開発会議の発足に際しての国連事務総長ウ＝タントの演説を資料とした問題である（**例題1**）。**東京大学**が公表した出題の意図では、「歴史的な視点から肉づけしつつ、世界の経済構造について説明してほしい」としている。『新詳 世界史探究』（以下、『探究』）では、p.329に「南北問題の出現と国際分業体制への批判」の項目で詳細な記述があり、同ページの「SDGsを考える世界史　南北問題是正の取り組み」のコラムもあるので、参考になるだろう。また**東京大学**第3問では、ポストコロニアル研究を代表する著作『オリエンタリズム』の著者として、サイードを答えさせる問題が出題された。『オリエンタリズム』は『最新世界史図説 タペストリー二十二訂版』（以下、『タペストリー』）にキーワードとして紹介され(p.197)、サイードについても言及されている。

■例題1　2024年度　東京大学：第1問(2)

> 資料部分引用　（発展途上）地域は実際には発展していないか、あるいは十分な速さでは発展していません。程度はさまざまですが、深刻かつ持続的な低開発の状態に苦しんでいます。（中略）政治的な解放が得られても、それにともなって、期待どおりの経済的な進歩が生じるわけではないのです。
>
> 問(2)　演説で述べられている経済的な問題は、どのような歴史的背景をもち、その解決のため1960年代に国際連合はいかなる取り組みをおこなったのかについて、5行以内で記述せよ。

その他、**東京外国語大学**の第1問では、アジアでの戦争と冷戦の関係が400字以内の論述問題で問われていた。その他の今日的な問題としては、パレスチナ問題が、**九州大学**、**信州大学**、**東京都立大学**などで出題された。

3 図版・資料読解を要求する問題

九州大学の第1問は15世紀から20世紀の絵画と政治・社会の結びつきを550字以内で問う論述問題であった。「ゲルニカ」「ヴィーナスの誕生」が図版として示され、「バロック美術」、「立体派」、「ドラクロワ」、「ワトー」、「印象派」と美術史に関する用語が指定語句となっていた。『タペストリー』の「ルネサンス①」(p.158～159)、「17・18世紀のヨーロッパ文化②」(p.178～179)、「近代市民と文化」(p.210～211)、「20世紀の文化」(p.267)を参照されたい。

前述の**東京大学**第１問も、資料読解を要求する問題であった。**一橋大学**の第１問は、中世神聖ローマ帝国の都市の性格を、提示された資料の読解から述べることを要求する問題であった。**大阪大学**第３問では、孫文の「大亜洲主義」講演が資料として用いられた。 **北海道大学**の第３問では、90 字以内で大躍進政策を問う論述問題で、1990 年代の中国の人口ピラミッドのグラフが使用されていた。

4 「世界史の中の日本」に関する問題

今年度も「世界史の中の日本」に関連する問題がめだった。**京都府立大学**では、福沢諭吉を解答として要求する問題が出題された（**例題 2**）。

■例題 2　2024 年度　京都府立大学：第 1 問 問 21

1882 年、朝鮮では開化政策への不満を懐く旧式軍隊が反乱を起こした。この反乱鎮圧を契機として、朝鮮における清の影響力が強まると、急進的な開化派であった（　⑦　）は、(n) 日本と結んでクーデタを起こしたが、清軍によって鎮圧され、朝鮮における清の勢力が強まった。

問 21　下線部（n）と関連して、こうした朝鮮の情勢に失望し、『時事新報』に脱亜論を著し、朝鮮と清との連帯が困難であるため、日本は独力で西洋を目標とすべきと論じた人物を記せ。

この点について、『探究』では、「甲申政変と日本の脱亜論」のコラム（p.241）で、甲申政変を機に福沢諭吉が「脱亜論」を発表したことが示されている。日本を含めた近現代の東アジア史に関連する問題としては、**京都大学**第１問で 300 字以内の論述問題として、「16 世紀末から 19 世紀末にいたる朝鮮と中国の関係の変化」が問われた。この問題では、朝鮮において清の乾隆帝期にも明の「崇禎」の元号が用いられていたことが示唆され、「小中華」思想に言及することが求められていた。**筑波大学**第４問は、「17 世紀半ばから 20 世紀半ばまでの台湾の統治と対外関係」を 400 字以内で論じる問題であり、指定語句には「台湾出兵」「下関条約」「サンフランシスコ講和会議」が含まれていた。前述の**大阪大学**第３問は、孫文の講演の「これから、世界の文化の前途に対して、いったい西方覇道の手先になるのか、あるいは東方王道の楯や砦となるのか、ほかならぬあなた方日本国民がじっくりと検討し、慎重に選択されることにかかっています。」に注目して、第一次世界大戦後の世界情勢・アジア情勢を 200 字程度で論じる問題であった。

近現代以前についても、**大阪大学**第１問で唐の高宗の時代の朝鮮半島諸国間の戦争を 100 字程度で論じる問題が、第２問で、17 世紀の日本、オランダ、バタヴィアの関係性に関連して 100 字程度で論じる問題が出題された。**一橋大学**第３問は、唐滅亡に伴う東アジア世界の政治的・社会的変動を問うもので、日本についても国風文化の発展から律令体制の崩壊と鎌倉幕府の成立に言及することが求められていた。

5 国家・宗教・国民統合に関する問題

主権国家・国民国家が出現する近現代以前に政治権力と宗教、政治権力と人民はどのように関係していたのか、国民国家はどのように領域内の人々を統合しようとしたのかというテーマの問題が、近年の入試では多く出題されてきた。**名古屋大学**は第１問でイスラーム世界の統治のあり方を出題し、第４問では中国で文化人が官僚として統治にあたってきたことを 450 字以内の論述問題で問うた。政治権力とキリスト教に関する問題も頻出であり、**東京大学**の第２問や京都大学の第３問、**東京都立大学**の第１問でキリスト教とローマ帝国、キリスト教とフランク王国の関係が出題された。北海道大学の第１問では、**京都大学**、**東京大学**、**東京外国語大学**などの各大学で近年出題されてきた「オスマン帝国と国民統合」がテーマの問題が出題された。

6 時間軸と空間軸・世界の一体化に関する問題

特定地域に視点を置く時間軸の問題としては、**愛知教育大学**第２問がイベリア半島、**筑波大学**第１問がメソポタミアの論述問題を出題し、**京都大学**第４問 A は、問題文が黒海をテーマとするものであった。空間軸と世界の一体化については、**東京都立大学**第３問でマゼランの航海の目的と達成したことを 80 字以内の論述問題で出題し、**名古屋大学**第２問でアカプルコ貿易、**筑波大学**第３問では、海洋国家としてのオランダの台頭から没落までが問われた。

7 来年度の展望

歴史総合の影響もあって、古代から現代の歴史の大きな枠組みと、世界の一体化、主権国家と国民国家といった主要なテーマの理解を問う問題や、「世界史の中の日本」を問う問題の出題は続くだろう。世界史探究になることで、資料読解問題の増加も予想される。ブラック・ライヴズ・マター運動や、ポストコロニアルなど、支配された・従属させられた側から歴史を見る問題は、来年度も注意したい。